

地域文教委員会 送付 31-10

(仮称) 四番町公共施設整備を慎重に進めることを求める陳情

受付年月日 令和元年11月28日

陳情者

陳情書

2019年(令和元年)11月28日

千代田区議会議長 小林たかや様

(仮称)四番町公共施設整備を慎重に進めることを求める陳情

陳情者

住所  
電話

1、陳情の理由：

千代田区に生まれ育ち、いま子どもを育てている母親の一人として、区民の代表である区議会に陳情いたします。

千代田区は(仮称)四番町公共施設建設計画を推進中とのことです。即、四番町図書館と区営四番町アパートと隣地の保育園を同時に建て替える計画で、新年1月には、図書館を閉鎖し、民間建物に移転するとの話を伺い、意見を申し述べたいと思います。

千代田区は、教育と文化のまちを自負し、本のまち神保町を中心に「本」の大切さに重きを置き、図書館行政にも意を尽くしてきたものと思っております。区民の収めた貴重な税金を使って事業を推進する、この度の図書館移転計画に於いても、文化行政の水準を維持しさらに発展させる計画として、区民の期待に答えなければならないと考えます。以下の質問、疑問にお答えをいただきたくお願いします。

2、陳情の主旨：

地域の子どもたちは、不意に行われた東郷公園の改修と使用中止によって、からだをきたえ日々成長するための遊び場が長い間奪われ、まだ数年この閉鎖状況が続くのでしょうか。千代田区として計画段階での調査や見通しが、不十分ではなかったかという印象を受けます。図書館建て替えについても、建設計画の説明の中で簡単な質問に応えた程度で、それ以外に住民への説明はほとんどないような状況、このまま推し進めれば将来への疑問や不安を生じます。以下のことが明らかにされるまで、移転を延期してください。

1) 四番町図書館の仮移転先は、九段小学校の近くにある築44年のビルであり、耐震性の問題で、当初移転先としては不適切と判断したが、事業者の責任で耐震強化を実施し安全確認ができたため、移転を認めたとの説明がありました。万が一の時に、子どもたちがその程度の建物で危険性がないと区は保障できるのでしょうか。

ここ数年、日本では予期せぬ多くの災害に見舞われており、東京でも気象庁発表で30年



以内に直下型の地震が起きるとのことです。図書の重みを考慮すると、通常の用途よりも厳しい強度が求められており、元々耐震性に問題があった建築物を利用するのですか。耐震性の調査方法（いつ誰がどのように調査をしたのか）と結果データ、その結果データに対する判断内容について、住民にわかるように説明してください。公共施設である以上、民間ビルと同じレベルで良いということはありません。そもそも、築年数が新しく強度の高い現図書館から、築年数の古い旧耐震の建物に移転するという矛盾については、より丁寧な説明と検証が必要であることは、区民の税金で行う事業である以上は当然のことではありませんか。

2) 11万冊のうち仮移転先に移すのは3万冊とのこと。残りの8万冊の行き先について明らかにしてください。

3) 現図書館の耐震強度を明らかにして下さい。

4) 現在の住宅には高齢者を中心とする方々がお住まいと伺います。その方々が建て替えに伴う移転について理解を示されているのですか。あいまいなまま計画を進めれば、図書館行政にとっても住民にとっても東郷公園同様、問題を長引かせることになりかねません。住民が納得し移転することが明確になった段階まで図書館を閉鎖せず、子ども達や利用者のために開館を継続すべく区議会の方々のご尽力をお願い申し上げます。

以上